

2020年度(令和2年度)ああるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月15日

事業所名 ああるレインボーDuo谷塚駅前教室

	チェック項目	どちらとも いいえ			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
		はい	いいえ	いいえ		
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	1	整理整頓し部屋を広く使ったり、カーテンで仕切り部屋数を増やしている	部屋に柱があるので、ぶつからないように移動するなどを教えている
	2 職員の配置数は適切である	5	0	2	スタッフの人数によって無理なく活動が行えるように活動の種類を考えている	今後も配置は適切な人数で行いたい
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	1	新しくロッカーを設置し荷物の管理を自分できたり、カーテンを設置し食事に集中できるようにした	柱があることに慣れて動けているが、今後も注意をしていく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	0	毎日清潔や整理整頓を心がけて	活動に合わせて部屋の広さをかえている
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	1	毎週の会議、活動予定表による打ち合わせを行っている	会議で出た意見はすぐに実行するようにしている
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0	保護者の意見を共有し改善に繋げている	保護者の意見を会議で共有している
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0	時間を設けて検討する機会をつくる	会社のホームページで公表している
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	1	実施している	結果を踏まえて次年度の改善に繋げていく
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	会議で事例検討をおこなっている	次年度は交替で研修を行う予定
適切な 支援の 提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	0	定期的にあセスメントを実施し個別支援計画に繋げている	直接関わっているスタッフがモニタリング面談に参加している。作成した個別支援計画を会議で共有している
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	2	支援に必要な項目がわかるシートを使用している	標準化されたアセスメントシートを使用している
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	0	発達支援・社会性・家族支援・地域支援の項目を適切に選択して作成している	保護者がわかりやすい言葉を使用し、具体的な支援を明記するようにしている
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	0	計画作成時にスタッフ間で共有している	なるべく多くのスタッフで策定会議を行うようにしたい
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	1	活動予定表をリーダーが作成し、チームで共有している	年齢別のグループごとに作成し、今後はチーム以外のスタッフとも共有し全員で把握していく
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	成長や、活動の達成度に合わせてステップアップしている	興味を持って楽しむことを一番に工夫をしていく
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	0	個別支援、集団支援を組み合わせさせて支援を行っている	個別・集団それぞれの課題を情報共有しながら、さらに良い支援を行っていく
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	前日までに活動予定を掲示し、当日朝に細かい打ち合わせを行っている	午前グループは前日までに、午後のグループは1週間前に掲示することを徹底していく
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4	0	チーム内で振り返りを行い必要があれば会議にあげている	全員で共有して意見交換するために「ノート会議」を行うようにした
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	グループ活動記録、個別支援記録を必ずつけて共有できるようにしている	個別支援記録では担当の見立てや、保護者からの話しも細かく記録し次の支援に繋げていく
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	計画更新時、または、保護者相談の際に見直しを検討している	発達を理解し、先の想定をしながら計画の作成を行っているが、必要があれば随時見直しをしていこうと思う	

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2	2		サービス担当者会議の機会を設け、担当スタッフが意見交換できるように指導していく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	0	小さなことでも、直ぐに報告を行い連携に心がけている	違う立場からの支援を行うことで、その児童の最善の支援に向かえるよう今後も情報共有を行う
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	2	0		公立の児童発達支援事業所や保育園と連携をとり、進路の相談を継続していきたい
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	3	1	担当医療機関のMSWとの連携を	どのような支援を行うか、医療的な見解も得ながら支援を行っていききたい
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3	1	スムーズに移行できるように情報共有を行っている	入園のための意見交換や、入園先への情報共有をしていくことで落ち着いて通園できるようにしていきたい
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3	2	直接の連携はしてないが、保護者から情報を得ている	今後は、小学校や特別支援学校との連携もしていきたい
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	1	近隣保育園や、都内児童事業所との連携をしている	意見交換や、研修の機会を増やしていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	0	4	公園でのかかわりのみ	コロナ収束後考えていきたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	2	3	研修を受講した	参加できる機会を作りたい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	連絡帳や送迎時のやりとりを通して日々共通理解を持てるようにしている	必要性のある時は随時面談も実施
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	4	1	2		ペアトレーニングができるようなスキルを身に付けていきたい
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	1	契約時実施	契約の時に重要事項説明書を使用し読み合わせをしながら、説明を実施している
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	2	0		同意を頂いてから確認印を頂いている
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0	迅速に行っている	臨床心理士による相談の機会も増やしていきたい
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	6		要望により考えていきたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0	送迎の際のやりとりや、連絡帳でのやり取りに配慮しながら面談の機会を作っている	臨床心理士による相談の機会も増やしていきたい
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	会報を発行し「ほっこりエピソード」などを伝えている	毎月、会報を発行していく 内容を検討していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	0		職員一同十分に注意している
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0		保護者は非該当
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	0	5		今年度はコロナの為出来なかった

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	0	作成して周知している	定期的にマニュアルの読み合わせをしていける様にしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	毎月必ず実施している	避難訓練に緊迫感を持たせる様にしていきたい
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	0	入所時に必ず確認実施	発作はないが、経過観察で定期受診している児童がいるので、情報共有していく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	0	入所時に必ず確認実施	アレルギーの児童もいるが、お弁当持参。程度を確認しながら対応している
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	毎月表にして必ず共有	ヒヤリハットを都度あげるようにしている
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	年度の初めには必ず研修実施	毎月の会議でも虐待について意識出来るようにしている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1	2	口頭で説明をして同意をえているが、支援計画には記載していない	危険行動の制止のために身体に触れる行為などの可能性を具体的に十分に説明していきたい

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。